

なぜ『増し締め』が車輪脱落事故防止に効果があるのか？

1

ホイールを車両に取り付ける時に、ナットの締め付けにトルクレンチを使用するのは何故ですか？



トルクセッター(トルクレンチ)

2

ホイールを車両に取り付ける時に均一な力でナットを締めていれば走行していてもナットは緩まないのですか？




ホイールを取り付ける8個または10個のナットが全て**適正かつ均一**の力で締まっている必要があるからなんだ。

適正に締まっているナット




走行するとハブ～ホイール～ナット間の“初期なじみ”により、**ナットの締め付け力は低下してしまうんだ**。ナットを締め付ける力が均一ではなく、バラついてしまうことがあるんだよ。

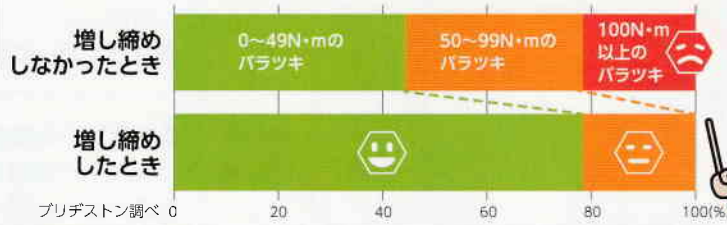
少し緩んだナット 緩んでいるナット

3

ナットが均一な締め付け力を維持するにはどうすればいいですか？

● **走行した後のナットの締め付け力のバラツキ**

※車両ごとに、ナット締め付け力の最高値から最低値を引いた値(調査56台)



増し締めしなかったとき	増し締めしたとき
0~49N・mのバラツキ	0~49N・mのバラツキ
50~99N・mのバラツキ	50~99N・mのバラツキ
100N・m以上のバラツキ	100N・m以上のバラツキ

ナットの均一な締め付け力の維持には『増し締め』が有効だ。グラフの通り、増し締めをしないとナットの締め付け力はバラツキ易くなり、バラツキ量も大きくなることがわかってる。**増し締めはナットの均一な締め付け力維持に効果的だ。**

『増し締め』により、ナットの締め付け力の低下(緩み)を元に戻すことができます。

ナットの緩みはどうやって確認できますか？

ご存知ですか？




100N・m緩むと 元に戻す事が必要 増し締め

ブリヂストンで取り組んでいるナット～ボルトに引くラインにより目視での確認が可能なんだ。なお、『増し締め』は、国交省からも車輪脱落事故防止の為に実施するよう、指示が出ているので、必ず『増し締め』は必要なんだよ。

目視確認!

輸送事業者様へのお願い

- ホイールナットの締め付け後は“なじみ”によりナットの締め付け力は低下します。**タイヤ交換後50～100kmを目安に増し締めを行うよう、ドライバー様への徹底をお願い致します。**
- 日常(運行前)点検では『ナットの緩み』が無い確認をお願い致します。ブリヂストンでは、『ナットの緩み』の確認が容易にできるよう、ボルト～ナット上に『ライン』を引く取組みを行っています。
- 増し締めの方法等ご不明な点がございましたら、当店スタッフにお声かけください。



販売店